

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p><b>1. 市民を守るために災害対策の見直しを（40分）</b></p> <p>本年1月1日午後4時10分、能登地方で最大震度7という大地震が起きました。大きな揺れに加え、津波と火災によって、奥能登地域を中心に甚大な大災害となりました。被災された住民は、今なお大変なご苦勞をされています。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方に心からのお見舞いを申し上げます。一日も早い、復旧と復興をお祈り申し上げます。</p> <p>「災害は忘れたころにやってくる」と言いますが、日本全国を見渡せば忘れる間もなく、頻繁に大災害が起こっています。内閣府防災によると、激甚災害に指定された災害は過去5年で24件です。いずれの災害でも、被災者から聞かれるのは「まさかこの地域が」です。「鶴ヶ島市は災害リスクが低い」と、市長もたびたび口にされます。しかし、本市は本当に災害リスクが低いのでしょうか。そこに油断はないのでしょうか。</p> <p>「市民の生命、身体、財産を守ることは、市政の最も基本的な責務」、これは昨年6月定例会の答弁です。明日にも襲ってくるかもしれない大災害から、市民の生命、身体、財産を守る責務が市にはあります。能登半島地震の震源は、気象庁の震央分布地図に表示されていない活断層でした。本市の被害想定と災害対策を見直す必要性を感じます。</p> <p>以下、質問します。</p> <p>(1) 能登半島地震後に見直した地震災害対策と認識している課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 被害想定は</li> <li>イ 備蓄物資は</li> <li>ウ 情報インフラの確保は</li> <li>エ 避難所の設備と運営は</li> <li>オ 市職員および教職員の災害対応体制は</li> <li>カ 災害弱者対応は</li> <li>キ 災害関連死対策は</li> </ul>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p><b>2. 脚折雨乞を活かす施策</b> <span style="float: right;"><b>（10分）</b></span></p> <p>本年8月4日、脚折雨乞が行われます。</p> <p>恵みの雨を求め五穀豊饒を願う脚折雨乞は、本市が誇る伝統行事です。私は、鶴ヶ島市議会議員としてはもちろん、鶴ヶ島で生まれ育った鶴っ子のひとりとして、とても楽しみにしています。</p> <p>コロナ禍を経て8年ぶりの開催です。また、今年の干支は辰です。市民の参加者はもちろん、市外からも多くの来場客が見込まれます。市外からのお客様を歓迎し、脚折雨乞を市民のシチズンプライド醸成やシティプロモーションを活かすための準備は万全でしょうか。</p> <p>市外からの来場客は、公共交通機関を使う場合には、東武東上線若葉駅の利用がメインになります。脚折雨乞の日、若葉駅は本市の玄関口となり、本市の第一印象に大きな影響を与えます。</p> <p>昨年6月定例会で、山中議員が若葉駅周辺の整備について質問され、その後に念入りな清掃がされました。しかし残念ながら、かつての美しさを取り戻せてはいません。老朽化はいたるところにおよびます。若葉駅西口広場に憩いをもたらしてくれていた木々の多くは失われ、西口出口正面のガス灯は長期間消えたままです。</p> <p>本市の魅力を発信するための重要なツールであるウェルカムガイドブックは、令和元年に作られて以来、情報が更新されておらず、在庫もついているようです。改訂や増刷など、配布の準備が必要だと感じます。</p> <p>脚折雨乞の開催まで半年を切りました。なすべき準備はさまざまにあると思いますが、今回は市外からのお客様をお迎えする体制と、シティプロモーションへの活用を確認します。</p> <p>質問します。</p> <p>(1) 若葉駅および西口広場の整備予定は</p> <p>(2) シティプロモーションへの活用は</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p><b>3. 保留児童の実態と対策は (10分)</b></p> <p>「子どもにやさしいまちづくり」、これは齊藤市長の掲げる3つの重点戦略のひとつです。「鶴ヶ島市は保育所や学童保育室の待機児童が10年連続でゼロです」と、市長は今年の定例会や市民公聴会の場でも説明されました。素晴らしい実績です。</p> <p>しかし大切なのは実態であり、市民ニーズに応えられているかです。たしかに、国が定める「待機児童」の定義に則れば、本市の待機児童はゼロなのでしょう。ですが、希望通りの保育所等を利用できていない「保留児童」まで範囲を拡大するとどうでしょうか。</p> <p>先日、市民の方から切実なメールを頂きました。以下要約です。</p> <p>「来年度から保育園に入れようとしたのですが、すべて落ちてしまいました。10年連続待機児童ゼロという言葉を見て、大丈夫だろうと思っていました。こんなに厳しいと分かっていたら、滑り止めで早めに鶴ヶ島市内の認可外保育所を申し込みできたと思います」、要約は以上です。</p> <p>「待機児童ゼロ」というメッセージを強くアピールしてきた結果として、このメールのように、市民を混乱させてしまっている現状があるのではないのでしょうか。</p> <p>担当課に伺いましたところ、「4月1日現在の国定義の待機児童数は10年連続でゼロとなっておりますが、待機児童数に計上されない保留児童は、毎年、発生しております」とのご回答がありました。</p> <p>横浜市では毎年、保留児童についての詳細な分析結果を公表し、対策につなげているそうです。本市の実態把握と現状分析はどうなっているのでしょうか。</p> <p>保留児童について、以下質問します。</p> <p>(1) 直近5年間の実態と分析は</p> <p>(2) これまでの対応と今後の対策は</p>	<p>市長</p>